

2 体験を理解する

② 体験の深まりを読み取る

子どもたちに「科学する心」が育まれる体験をしている場面を把握する事例から更に踏み込んで、継続している活動を追い**体験の深まりを読み取る**ことは、「科学する心」の成長を捉えることに結び付きます。

以下の事例は、「科学する心」が育つ過程を示しています。長期間に亘る栽培活動での、子どもたちの折々の言動をその過程に添って把握しています。子どもたちが積み重ねていく体験が「育ちの過程」に結び付いている実態から、体験の深まりを読み取ることで、子どもたちの成長が明らかになります。

「今がチャンス」 5歳児
出雲市立塩冶幼稚園

「科学する心を育てる」
～自ら考えようとする気持ちが育つ過程～
「もしかして!」「試してみよう」「わかった!」

出会う・見る



触れる・感じる



好奇心・興味関心



試す
繰り返しやってみる



工夫する



自分なりに理解
関連付ける



(求める子どもの姿)

- ・身の回りの自然事象に気付き、自分の遊びの中に取り入れる。
- ・事象に関わる中で、考えたり試したりしながら工夫していく。

子どもの言葉や様子

「ピーマンに**白い**かわいい花が**3個**咲いたね」「**トウモロコシ**が**すごく大きくなった**」「**ナスの紫の花**がなくなって、**ギザギザ**になってきてる」「**赤ちゃんキュウリ**ができています」

「**サニーレタス**もう**食べられる**から食べよう！この前も食べたのに**またできた**ね。何で？どうして？」
「**カボチャ**に**黄色い花**が咲いた」

トウモロコシが**大きくなり**、**倒れかけている**ことが大騒ぎになる。どうしたらよいか話し合う。
「**ミニトマト**みたいに、**真ん中に棒を立てるといい**かもしれない」「**やってみよう!**」

A児が「**今がチャンス**だよ!」と言う。保育者が「**チャンス**って何? どうしたの?」と問いかけると、A児は「**あのねー、雄花と雌花が咲いたら赤ちゃん**ができるように**くっ付けないといけないよ!**」と更に詳しく話す。他児も興味をもち「**どうやってするの?**」と言う。A児が「**雄花をハサミで切って、雌花にくっ付けるんだよ**」「**これで赤ちゃん**ができるよ」と話すと、子どもたちは更に興味を深める。

A児の話がきっかけとなり、雄花と雌花のことを聞いたり図鑑で見たりする。実際に友達みんなの前で、**人口受粉**をして見せたことで、他の野菜でも**チャンス**ができることを知り、その後も「**チャンス**」と言い、**受粉**をするようになる。

写真を見ながら今までの様子を振り返り、「**キラキラ**ポタジエ案内図」を作る。楽しみながら文字や絵を描き加え仕上げる。案内図の前で友達と会話を楽しんだり、野菜の生長を感じて喜んだりする。子どもたちは当時の**発見や疑問**を振り返って「**あの時は〇〇だったね**」「**今はこうだよ**」など比較したり、案内図を見て分かるような**表現の仕方**を考えたりする。

「**トウモロコシのヒゲ**がたくさん生えていた」「**ヒゲは、トウモロコシ**ができる**印**だよ」「**トウモロコシ**、**みんなのセンチ(背)**超えているね」「**ぐんと伸びて花**が咲いて、**ゆらすと花粉**が飛んだよ」「**チャンス**の**成功**だね!」

この事例は、「畑を作りたい」という子どもの思いがきっかけになり（関連事例P.5）子ども中心に活動が展開しています。そのため、子どもたちは栽培物をよく観察し、生長に必要な情報を共有しています。特に、「チャンス」という意欲的な関わりや、工夫した案内図作りでの振り返りなどにより、子どもの体験の深まりを読み取ることで、「科学する心」の育ちが明らかになっています。（関連事例P.19）

15